

委員会レポート

起債の内容と本町の実情

【概要】

起債とは、町が必要とするお金を外部から調達する債務（いわば借金）であり、証書借入や証券発行によって行っている。起債の目的は、支出と収入の年度調整が主であり、起債の種類としては、臨時財政対策債と過疎対策事業債、緊急防災・減災事業債、公共施設等適正管理推進事業債となる。

借り入れには、国からの公的資金と銀行などからの民間等資金の2通りがあるが、本町では主に公的資金の方を借り入れている。種類は過疎対策事業債が5割、臨時財政対策債が3割とできるだけ有利な起債を選択している。また、起債に対する交付税措置については、平成13年度の骨太の方針によって、廃止や縮減が行なわれている。

【意見】

本町の起債残高は平成15年度を境に減少傾向にある。これは、平成10年度以降、大規模な施設建設やほ場整備事業などがあり、道の駅や統合中学校整備を終え、その後は安易な起債発行は行っていないためである。

ある。今後は、大幅な人口減少も危惧される中、財政負担を十分に考慮し、適切な運営を望むものである。なお、過疎債は適正に管理されているが、今後過疎債が使えなくなるような状況が生じた際の対応等については、十分協議されて適切な管理をしていただきたい。



近年の町内経済と観光

【概要】

新型コロナウイルス感染症が確認されてからの約3年間、町内でも観光客等の入込に変化があった。

令和3年観光客入込は約92万人（令和元年比約51%）まで落ち込み、令和5年の観光客数の入込は約13.8万人（令和元年比約77%）だった。

令和2年から令和5年にかけて、町では商工業振興対策と金融対策、観光振興対策を実施した。猪苗代応援商品券交付事業やコロナウイルス特別資金利子補給金事業など、総額約7億円の事業を実施し、町内経済と観光対策に取り組んできた。

【意見】

今回の感染症の影響で、先の見通しが立たない中、町内事業所や観光対策への多くの支援策は有効であったのではと実感する。

利子補給では他の自治体よりもより手厚い内容と評判だったとの声もあった。

周遊バスの実証実験では、観光客のみならず地域住民に対し

ても広がり利用客が増加していることは、今後より一層の需要が期待される。町内での滞在時間を伸ばすための支援策や観光施設との連携、旅行会社と連携した多くの観光客を誘客できるイベント事業の実施も必要ではと考える。町が求められているブランドイメージを全体で共有し、計画的な観光経済対策が今後求められてくる。

インバウンドの需要や新たな観光資源が予定されている本町にとって、官民一体となった取り組みを今後期待したい。



観光周遊バス「ひでよくん号」

議会報告会

【概要】

〓栃木県高根沢町議会〓

原則年4回開催している。平成24年10月から町民との意見交換会を行ってきた。31年から「カフェ・ド・ギカイ」のサブタイトルで実施。令和元年から始めた各種団体との意見交換はコロナ禍で3年より再開。意見や要望は、各常任委員会に振り分けて審議し、町長へ報告・提言する。若手農業者や消防団との意見が町政へ反映された。

【意見】

町民と議会をつなぐ高根沢町の「カフェ・ド・ギカイ」は、課題解決に向け検討する対話の場となっている。

矢板市の学区やテーマ別での開催は、さらに深く意見交換ができる。

高校生との意見交換もこれまでとは違う形で実施すると聞き、柔軟に取り組むことも必要であると感じた。

広報広聴常任委員会

〓栃木県矢板市議会〓

平成27年から中学校区3地区で開催。共通テーマや地域別課題も取り上げる。平日夜の開催で60代男性の参加が多かった。コロナ禍は、動画や書面で行った。本年はテーマ別に午前・午後、また日曜に開催した。意見をまとめた要望書の振り返りを2年ごとに行い、市民からの声をカタチにできるように取り組んでいる。高校生との意見交換は平成30年から始めた。今年度は市の課題をテーマに議論し、どの提案が一番良いか投票する形で取り組む。



高根沢町での視察研修

子ども議会

【概要】

〓双葉郡浪江町〓

子どもの主権者意識を育むため、昨年度から子ども議会を開催し、社会を生き抜く力や地域の課題解決を主体的に担うことができる力を身に付けさせることに取り組んでいる。

対象は、町内の小学校5、6年生と中学生の2部で、教育課程に位置づけて授業時間に町の課題と目指すべき将来像について話し合い、また議会の仕組みや町行政の仕事について施設見学や説明を通して学んでいる。

特に、議会議場での一般質問においては、定められた事前通告書様式を使い、子ども議員として質問、再質問を行っており、町側も3役を始め全ての課長が出席して庁議を経た答弁をしている。

質問内容も大人が気付きに難しいものや身近な疑問をはじめ、水素エネルギーなどの町産業の将来像などに関するものなど様々な分野に渡る。また質問した事項が1つでも実現できた場合には子ども達の喜びも大きい。うえ、次年度へのやりがいにも繋がるのが期待される。

【意見】

子ども達の授業時間を割いて議会の勉強や体験をしてもらうためには、子ども達本人はもとより、教育委員会や学校、PTAや町など多くの関係者に御協力をいただかないと実施できないことが確認できた。また、時期や人数、記録や進行など検討が必要な点なども見え、今回の研修で直近に実際行っている町での話は非常に参考になった。是非本町でもなるべく早い時期に実施したいと思う。



浪江町での視察研修

経済厚生常任委員会

【意見】

今回の感染症の影響で、先の見通しが立たない中、町内事業所や観光対策への多くの支援策は有効であったのではと実感する。

利子補給では他の自治体よりもより手厚い内容と評判だったとの声もあった。

周遊バスの実証実験では、観光客のみならず地域住民に対し

議会運営委員会

質問内容も大人が気付きに難しいものや身近な疑問をはじめ、水素エネルギーなどの町産業の将来像などに関するものなど様々な分野に渡る。また質問した事項が1つでも実現できた場合には子ども達の喜びも大きい。うえ、次年度へのやりがいにも繋がるのが期待される。



浪江町での視察研修